

ヴァイオリン
三浦文彰

新日本フィルハーモニー交響楽団

佐渡裕

指揮

次代の巨匠ヴァイオリニストと贈る
ブラームス最高傑作

ブラームス
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.77
交響曲第1番 ハ短調 Op.68

© Yoji Hori

© Jun Yoshimura

© K.Miura

2026

5.31日

14:00 開演
[13:15 開場]

熊本県立劇場コンサートホール

料金[全席指定・税込]

S席 8,000円 / A席 7,000円 / B席 6,000円

※25歳以下の方、障がいのある方は3,000円引

※未就学児の入場はご遠慮ください(有料託児サービスあり<要事前申込>)



託児サービス
(要事前申込)

生後6か月から小学校低学年までの
お子様をお預かりする託児サービスを実施します。

○先着10名様 / お子さまお一人につき1,000円(税込)

申込・問合せ

○申込締切:2026年5月25日(月)18:00まで

サマンサ 096-274-1249

公演に関するお問合せ 熊本県立劇場 TEL.096-363-2233

プレイガイド

熊本県立劇場 096-363-2233

チケットぴあ (Pコード:315-964)

ローソンチケット (Lコード:84339)

発売日 / 1月30日[金] 9:00~

主催 | (公財) 熊本県立劇場

後援 | 熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、益城町教育委員会、
熊本県吹奏楽連盟、熊本日日新聞社、KAB

協力 | 益城町文化会館

詳細は
こちら



県立劇場では駐車場舗装工
事のため、駐車可能台数が大
幅に減少しております。ご来
場の際は公共交通機関のご
利用をお願いいたします。

トップアーティストの「響宴」で味わうブラームス！

音楽評論家 奥田佳道

マエストロ佐渡裕とヴァイオリンの三浦文彰がブラームスを奏でる。ファン憧れのトップアーティストの「響宴」に胸ときめく。

愛すべきキーワードが浮かぶ。音楽の都ウィーンだ。佐渡も三浦もウィーンから檜舞台に羽ばたいた。ドイツ北部の港街ハンブルクに生れたブラームスも20代の終わりにウィーンに住み、ゴールドの装飾もまぶしい、あの楽友協会の監督も務めた。

ブラームスはお気に入りの避暑地で創作のペンを執る夏の作曲家だった。傑作の誉れ高いヴァイオリン協奏曲は、オーストリア南部ヴェルター湖畔の美しい村ペルチャッハで書かれた。壮大にして優美。三浦が紡ぐ流麗かつ技巧的なソロパートばかりでなく、オーケストラがまた素晴らしい。夢見るような調べもハンガリー舞曲に通じる躍動感も聴こえてくる。

練達のキャリアを誇る佐渡が、劇的な交響曲第1番に腕をふるう、と記しただけで早くも興奮を隠せないファンも多いことだろう。ここへきて演奏のクオリティをぐっと高めている新日本フィルハーモニー交響楽団と佐渡のステージは、いま音楽シーンの華だ。喝采が早くも聴こえてくるかのよう。

ブラームスづくしのロマンティックなコンサート。開演が近づいてきた。



© Masahiro Uto

三浦文彰

Fumiaki MIURA (ヴァイオリン)

ハノーファー国際コンクールにおいて、史上最年少の16歳で優勝。国際的に一躍脚光を浴びた。18年サントリーホールARKクラシックスのアーティストティック・リーダー、24年に宮崎国際音楽祭の音楽監督に就任。ロサンゼルス・フィル、マリンスキー劇場管、イスラエル・フィル、ベルリン・ドイツ響、NDRエルブ・フィルなどと共演。共演した指揮者ドゥダメル、ゲルギエフ、フェドセーエフ、ズーカーマン、ロウヴァリ、フルシャなど。ロイヤル・フィルのアーティスト・イン・レジデンスも務めた。

室内楽では、ズーカーマン、マイスキー、ピリスなどと共演。国内では、大河ドラマ「真田丸」テーマ音楽を演奏したことやTBS「情熱大陸」への出演も大きな話題になった。24年、デビュー15周年を迎え、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会を行い絶賛を博した。25年には、フィルハーモニア管、バンベルク響と共演。CDはエイベックスよりリリース。09年度第20回出光音楽賞受賞。使用楽器は株式会社クリスコ（志村晶代表取締役）から貸与された1732年製ガッレル・デル・ジェス「カストン」。

佐渡裕

Yutaka SADO (指揮／音楽監督)

京都市立芸術大学卒業。レナード・バーンスタイン、小澤征爾らに師事。1989年プザンソン指揮者コンクール優勝。95年第1回レナード・バーンスタイン・エルサレム国際指揮者コンクール優勝。これまでパリ管弦楽団、ケルンWDR交響楽団、バイエルン国立歌劇場管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等、欧州の一流オーケストラに多数客演を重ねている。2025年6月までオーストリアの名門トーンキュンストラ管弦楽団音楽監督を10年間務め、その後同楽団名誉指揮者に就任。国内では兵庫県立芸術文化センター芸術監督、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、シエナ・ウインド・オーケストラ首席指揮者、「サントリー1万人の第九」総監督などを務める。CD録音は多数あり、最新盤はトーンキュンストラ管弦楽団を指揮した22枚目のCD「マーラー：交響曲第6番」。著書に「僕はいかにして指揮者になったのか」（新潮文庫）、「棒を振る人生～指揮者は時間を彫刻する～」(PHP文庫／新書)など。

オフィシャルファンサイト
<http://yutaka-sado.meetsfan.jp>



© Peter Rigaud c/o Shotview Artists

新日本フィルハーモニー交響楽団



1972年、小澤征爾、山本直純の下、自主運営のオーケストラとして創立。97年、すみだトリフォニーホールを本拠地とし、日本初の本格的フランチャイズを導入。定期演奏会や特別演奏会の他、地域に根ざした演奏活動も精力的に行う。

99年、小澤征爾が桂冠名誉指揮者に就任、歴代の指揮者には、初代音楽監督・小泉和裕（75～79年）、第2代音楽監督・井上道義（83～88年）、第3代音楽監督・クリスティアン・アルミンク（03～13年）、第4代音楽監督・上岡敏之（16～21年）。ダニエル・ハーディングがMusic Partner of NJP（10～16年）、インゴ・メッツマッハーがConductor in Residence（13～15年）、久石譲が新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラ（W.D.O.）音楽監督（04～25年3月）、Music Partner（20～25年3月）を務めた。

受賞歴に三菱信託音楽賞奨励賞、三菱UFJ信託音楽賞、ミュージック・ベンクラブ音楽賞等。2023年4月より佐渡裕が第5代音楽監督に就任。街・ホール・オーケストラが一体となった音楽活動を行う。

公式ウェブサイト：www.njp.or.jp 公式X：@newjapanphil
公式Facebook：/newjapanphil 公式Instagram：/newjapanphil



© K.Miura